

## カンジョン村濟州海軍基地反対対策委員会から岩国に送る 岩国基地強化反対の連帯メッセージ

平和を愛する岩国の友人の皆さんへ

来る8月21日岩国基地強化に反対して現場で始まった定例抗議行動が7年目をむかえると聞きました。海の彼方の濟州島カンジョン村から、心からの平和と連帯のご挨拶を送ります。

朝鮮半島に近い岩国基地に130機の戦闘機が集中統合配備（移駐）され、米海兵隊の最新鋭戦闘機F-35が米国以外の地域で最初に、それも10機も配置されるということに驚きを禁じ得ません。また、米オスプレイ輸送機の作戦ハブとして利用されるというニュース、そして人口13万5千の都市に1万人の米軍とその家族が配置されるというニュースを聞くと、岩国市民が体験する苦痛が他人事には思えません。岩国基地は米海兵隊の強襲艦がある佐世保とも近いので、基地統合と再編がもたらす軍事的緊張がより一層高まるのではないかと心配です。そのために、より一層、2006年岩国への移駐が発表されて以来10年以上闘争を継続してこられた岩国の皆さん、そして支持者の皆さんに深い感謝と激励を申し上げます。

岩国米海兵隊基地の強化は、去る7月11日の駐韓米8軍司令部が平澤のキャンプハンフリー駐韓米軍基地に入居し、巨大な基地拡張が行われていることを連想させます。韓国中部の西海岸に位置する平澤もまた、何年にもわたる住民たちの闘争にもかかわらず、米軍再編戦略によって基地強化と拡張の場になりましたが、約43万の人口を持つ平澤に、2020年までに約4万2千人の米軍とその家族が居住する計画だといひます。今年中に駐韓米軍司令部の入居も予想される平澤のキャンプハンフリーは世界最大の海外駐留米陸軍基地と呼ばれ、アメリカの支配戦略に服務する準備ができています。一方、今年4月に慶尚北道の星州ソソン里に、住民たちの反対にもかかわらず、サードXバンドレーダーと2基の発射台が奇襲配備されましたが、現政権は米朝間の緊張の高まりを口実に、今年中にさらに4基を配備すると公表しました。ロウソク革命によって選出された文在寅（ムン・ジェイン）新政権は、平和協定を語りながらも、それと矛盾するように軍事力増強に、他でもなく韓米同盟の強化を強調しています。この韓米同盟は、韓米日同盟の一つの軸であることは言うまでもありません。

中国とロシアを封じ込めるためのアメリカの北東アジアなど地域再編戦略、そして軍需産業と軍事増強に追従する政府によって、危険な軍事化が進展しています。皆さんや私たち、そして北東アジア民衆すべてにとって致命的な状況だと言わざるをえません。昨年2月に完工した濟州海軍基地は、平澤、星州とも連結され、また佐世保、そして沖縄と岩国にも連結されるだろうと憂慮されます。一方、初めて今年二回も米イージス駆逐艦が濟州海軍基地に入港し、二回目はカナダの軍艦まで濟州南方の韓・米・カナダ海上戦争訓練のために入港しました。また他方で、2月末にアジア太平洋司令官は、アメリカの最新鋭駆逐艦ズムウォルトを、濟州を含む韓国の港に入港させたいと言及したことがあります。

今年、闘争10年目をむかえるカンジョン村海軍基地反対対策委は、皆さんのように今も変わらず闘争を継続しています。最近、濟州に空軍基地まで建設されるかも知れないという憂慮が大きくなっていますが、私たちは濟州海軍基地を閉鎖させ、濟州の軍事化を防いで真の「平

和の島」濟州を実現すべきだという使命感をより一層強く持たざるをえません。

地域の軍事化は、不必要な緊張を高めさせ、戦争の可能性を早めるでしょう。軍事基地がある地域は、軍事攻撃の最初のターゲットになるだけでなく、望まない加害者の役割をすることになるでしょう。濟州は、そういう教訓を、歴史から骨身にしみて理解しています。軍事化のくびきを拒否し、すべての生命が被害をこうむらず、基本的な水と空気の権利を享受して生きていける環境を用意することが重要です。それが真の安保でしょう。

全世界の軍事基地の相互緊密性が高まるほど、生命と平和のための私たちの連結と連帯がより一層大切です。それだけが、私たち自身と私たちが生きている北東アジア、そして地球を救うでしょう。長いあいだ闘争をやめずに続けている皆さんと私たちが、お互いの、そして私たちの子孫と多くの生命にとっての希望です。これからもともに闘争し連帯しつづけましょう！

平和へ

カンジョン村濟州海軍基地反対対策委員会

2017年8月19日